

4 事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない		見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>人口集中地区（D I D）の面積が拡大し、その中の人口密度が低下する中で、特に中心市街地における人口の減少が著しく、このまま人口減少が進むとまちの空洞化が進み、賑わいがますます失われることが懸念される。そんな中、本市においてもコンパクトシティの実現を目指しており、まずその核となる中心市街地において都市機能を充実させ、便利で魅力的なまちを形成することで、まちなか居住や賑わいを創出を目指していく必要があるため。</p>
見直し・改善内容	<p>都市再構築戦略事業は、市役所内部局を横断して一体的に公共施設再編や新たな都市機能の立地等を行っていくため、より一層の庁内調整と協力が必要</p>